

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム菜の花 上野幌館1階	評価実施年月日	平成22年2月26日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月3日

北海道



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「地域とのふれ合いを大切に暮らし」、「住み慣れた地域での生活を笑顔で送れるよう支援します」を目標にした理念を掲示している。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルーム内、館内に理念を提示しておりネームプレートの裏にも携帯、日々理念に添った介護が出来ているかスタッフ同士確認している。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議・家族会などでお集まりいただいたご家族に理念を説明、更に「菜の花だより」に掲載し、理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ゴミ捨てや雪かき、散歩などには進んで声をかけよう心がけている。今では近所の人から声を掛けられるようになった。又、裏に住んでいる報恩学園の生徒さんが雪かきを手伝ってくださる事もある。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入。町内の夏祭りにリサイクルコーナーを出店し、グループホームを理解していただけるきっかけ作りが出来た。又、定期的に訪問してくれるボランティアさんとの交流もできるようになった。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域住民より入居や介護についての相談がありアドバイスをさせて頂いている。時には見学にいらっしゃる方もおり説明をさせて頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者・管理者・職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>ユニット会議で自己評価、外部評価の意義について理解をし更に、評価結果をもとに介護の質向上にどう生かしていくか改善に取り組んでいる。。又自己評価表をスタッフ全員に配布し記載して貰い、管理者がまとめた。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議で提案された現在の課題やご利用者の意見などを取り上げ、話し合いその結果をケアサービス向上に活かしている。</p>	<p>○ 運営推進会議に参加して下さる構成員を増やしていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>区役所の保険課に疑問点や、書類に関しての相談をしている。又管理者会議に参加し意見を聞き、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>ご利用者の中には、成年後見制度を活用している方もいる。また、外部研修で権利擁護の講義を弁護士から受けている。</p>	<p>○ 今後、成年後見制度が必要なご利用者には活かしていける様支援していきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待に関する研修(内部、外部)で、学ぶ機会があり、ホーム内での虐待や身体的拘束は絶対にあってはならないことをユニット会議で話し合い、全スタッフに周知、徹底している。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約を結ぶ際、本社職員が対応し、十分な説明を行ない納得して頂ける様努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	「意見箱」を玄関に設置し、自由に思いを伝えられるようにしている。ご利用者の表情・しぐさ・サイン・更にコミュニケーションを取りながら、その中より不満・苦情を読み取っていただける様にしている。又、意見、不満、苦情が言える関係を築くように心がけユニット会議で話し合いを持ち、それらを運営に反映させるよう努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に健康状態や受診結果を報告している。「菜の花だより」やお手紙を通じて行事や日々の様子を詳しく記載更に、スタッフの異動なども知らせている。又、金銭管理については個人出納簿で管理し、毎月ご家族に郵送している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を開催し、ご家族より意見を聞いている。又、意見箱の設置や苦情相談の担当者を提示している。苦情については、ミーティングや会議で検討し本社にも伝え、ご家族への早急な対応と改善に努めている。運営推進会議にご家族代表の方より家族としての意見を聞いている。本社で行なう管理者会議で他館であった苦情や事例の報告があり、上野幌館で同じ事がない様、努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議を行いスタッフの意見や要望を聞き検討している。又、介護事業部長が定期的に当ホームに来てスタッフの意見や提案を面談で聞く機会を作っている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ご利用者の状況や体調、レクリエーション行事などがあれば職員の人員を多く確保するなど柔軟に対応している。又行事予定があれば、それに対応できる勤務表を作成している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ご利用者とスタッフの馴染みの関係を大切に、時にはご利用者にホームの事を教えてもらうこともある。可能な限り、引継ぎの期間を配慮し、新入スタッフはご利用者やご家族にきちんと紹介している。又、良い人間関係を築き、離職にならないよう、努めている。	○	退職者が出ないよう風通しのよい職場環境にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>介護事業部長によるスタッフ研修、新人研修、認知症介護に関する研修が実施されている。又、外部研修(実践者研修、スキルアップ研修等)に参加した者は、復命書を提出、ユニット会議で伝達講習も行っている。新採用者に対しては新入職介護チェック表を活用している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域のグループホームの管理者や職員と交流する機会を持って情報交換を行っている。</p>	<p>○</p> <p>職員も含め他のグループホームとの交流を、途切れることなく継続していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフの話に傾聴する機会(リラックスした個人面談)を持ちストレスを察知するよう心がけたり、有給休暇の使用を促している。又、運営者と職員との懇談会や食事会などの機会を設けて関係作りに取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>全職員に向けてストレスに関するアンケート調査をH18年に実施しているが、ストレスに関する再調査を実施したい。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>スタッフの努力や実績について評価するよう努めている。又資格取得ができる環境作りに努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ホーム見学などで食事や入浴などの体験をしてもらい不安や疑問などを傾聴している。管理者、スタッフ全員でも状況を把握し信頼関係を築くよう心がけている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>信頼関係を築く第一歩として見学の際、ご家族より困ったこと不安なことなど、じっくり傾聴し、ホームができる役割、支援を説明ご家族の悩みを受け止める努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族の不安や願い、思いなどを十分理解し、そして受け止め、「ホームで出来ること」を考えて行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	身体や認知症の状況、また介護力などの話を聞き、初期の段階で最も必要な支援を見極め、ご本人、ご家族の立場に立った対応に努めていきたい。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人は入居の際、精神的に不安定になりがちであるため、当館では必ずご家族と一緒に面談や見学に来ていただいている。その際、他のご利用者と一緒に食事やおやつ等食べて頂き、ホームに馴染まれるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に歌を歌ったり、パズルやチラシなどで折り紙創作などをしながら昔話、苦勞話、心に残っている話などを聞いたりし、喜怒哀楽をともにして連帯感を築けるように心がけている。その中で、ご利用者から納豆汁の作り方・掃除のしかたなど、学ぶ事も多くある。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常にご家族にはご利用者の生活状況などをお伝えし、行事等も積極的に参加していただき、協力関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会に来られた際には、ゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。菜の花便りと共に担当スタッフの手紙を郵送し、本人と家族の関係がより良くなるよう配慮を行っている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みのある方の面会時は、ゆっくり過ごすことができるよう配慮している。又、手紙や電話の希望にもそえるよう支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご利用者同士の関係を見極めたうえでスタッフが間に入りコミュニケーションやレクリエーションのサポートを行なっている。ご利用者の相性も考えテーブルの席を考慮している		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、アルバムを作り、ご家族様にお渡ししたり、ご家族もホームへ来られて様子を知らせてくれ関係を断ち切らない様努めている。	○	サービス利用が終了しても、ホームへ遊びに来られる等、関係を継続させていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者が希望を出された場合は、スタッフ間で話し合い、希望にそえるよう配慮している。自ら希望を話される事が難しいご利用者には、表情や動作、サインから読み取り、更にご家族より意向を伺い、思いを把握するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時ご家族にセンター方式の基本情報を記入していただいている。また、入居されてからご家族、ご利用者の会話の中より情報収集を行い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の生活リズムや、食事、排泄、心身の状態など考慮し、出来る事、出来ない事を常に把握しながら、ケアに反映させるようスタッフ間で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ユニット会議でご利用者の意向や希望を話し合い、それに基づいて介護計画を作成している。又、ご利用者やご家族、医療関係者からの意見も介護計画に取り入れ作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3か月ごとに見直しをしているが、退院時や日常動作の低下が認められた際は、現状に即した新たな計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフ一人ひとりが個別記録に、ケアプランにそったケアの実践や心身の状態等、具体的に記録し、情報の共有をする事で介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院や買い物、更に外食や行事の外出等についても、リフト車の運転を含め本社の職員が来て柔軟な支援をしている。。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署の協力により、避難訓練を年2回実施している。月に1度の歌のボランティアの方の訪館や新さっぽろ幼稚園児の慰問等、地域の方々との交流を行なっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問理美容サービス、訪問マッサージ、訪問歯科など、定期的に来て頂き希望されるご利用者に活用できるよう支援している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議での交流で、地域の状況や制度面での知識を深める機会となっている。具体的な相談・助言も含め、日常的に協働できるような関わりになってきている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	住替えの、ダメージを最小限にするよう、移転先の関係者にご本人の詳しい情報を提供し、住替えても同じ暮らしが出来る様努めている。		眼
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	常に誇りやプライバシーを傷つけないようにスタッフの声かけや、対応には充分きをつけている。又、記録等はご利用者の眼にふれないよう、スタッフルームに保管している。入職時、個人情報の保護に関する誓約書にスタッフ全員が署名、捺印をしている。		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	日頃より思いや希望が話しやすい雰囲気になるよう心がけている。特に入浴や夜勤帯に希望等を話してくれることが多い。また、意思表示が難しい方に対しては、スタッフが思いをくみ取るよう支援し、出来るだけ自己決定が出来る様に努めている。朝の洋服選び、外食時のメニューなど一人ひとり選んでもらっている。		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	業務優先になることなく、一人ひとりのペースを把握し、ご利用者が中心とした支援に心がけている。ゆっくりパソコンをされたり、ご家族の写真などを置き、クリスチャンの方は賛美歌を歌ったり、その人らしくいきいきとした生活リズムを大切に日々の暮らしが出来るよう努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	ご利用者自身が身だしなみやおしゃれをたのしんでいただける様支援している。理容・美容についてはご本人の希望を聞いている。毎日お化粧をしているご利用者もいる。又、化粧品の購入なども支援している。自己決定が出来ない方には、スタッフが一緒に考え、ご本人の意見を聞き、支援に努めている。		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	美味しい食事が楽しめるよう、一人ひとりの好みに応じた食事の形態で食べて頂いている。また、一人ひとりの力を活かしながら料理の下準備や後片付けを職員と一緒にこなしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	普段の生活から好みや望んでいることを把握し、本人の希望されるもの(コーヒー、野菜ジュース、飴、すじこなど)を購入し提供できる様、支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄リズムを把握し、その方に合ったトイレ誘導を実施し、オムツを使わないケアに取り組んでいる。又自尊心を傷つけないようさりげない対応を行なっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個々の心身の状況にあわせて、気持ちよく入浴してもらえる様、支援している。拒否があるご利用者には、声掛けや、日時を変えたり、入浴剤を使い雰囲気を変えて対応している。一年半入浴していないご利用者が入居した時は、ドライシャンプーや清拭等から少しずつ工夫を重ね拒否なく入浴を楽しんでくれるようになった。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご利用者の生活リズムを把握し個々の居室も、濡れたバスタオルをかけ、ゆったり安眠できる様、支援している。また、夜間の不眠時には会話をしたり暖かな飲み物を提供し話を聞き、安眠出来る様、支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご利用者の背景や生活歴を把握し、出来そうな事料理の下準備・茶碗拭き・床拭き・手すりの消毒等をして頂き、個々にに合った役割が定着している。ご利用者一人ひとりが楽しみが持てるよう、役割を活かした暮らしが出来るよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の希望、同意によって金銭管理をさせていただいている。ご家族と相談し少額のお金を所持しているご利用者もいる。買い物に行った時は、ご自分で支払いをしていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個々の体調を配慮しながら、季節や天候を見極め、散歩や買い物等、戸外に出かけられるよう支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	スタッフの運転する車で、近隣をドライブしたり、花見や紅葉狩りなどの支援を行なっている。家族と一緒に温泉に宿泊し、誕生日を祝ったご利用者もいる。夏にはご利用者全員でチェロの演奏会に出かけた。又、ご家族の協力で外食ツアーに出かけたり、大型バスをチャーターし、大通りのイルミネーション見学ツアー等実施している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話を希望された場合は、希望にそえるよう支援している。又手紙の代筆をする事もある。送られてきた手紙は確実に本人に渡している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会に来て頂ける様配慮している。面会に来られた場合は、居室、リビング等お好みの場所で過ごしていただいている。気軽に訪問しやすい雰囲気作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部・外部研修で、身体拘束をしない介護を学び、日々のケアにいかしている。身体拘束はいかなる時も行なわれていない。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中施錠はせず、見守りや所在確認を徹底している。玄関フロアまで出るご利用者もいるが、スタッフはご本人の目的を理解し、背後より見守りをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>プライバシーに配慮しながら、昼夜共に所在の確認を行なっている。夜間は巡回、音など察知し確認、起きてこられた方にも安全に配慮している。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>漂白剤や洗剤等は、保管場所を決め、施錠している。又、薬はスタッフルームに保管している。はさみを使えるご利用者には、スタッフの見守りのもと自由に使用していただいている。管理はスタッフがこなしている。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>転倒等については、ひやりはっと、インシデントレポートより原因の把握と今後の対応についてスタッフ間で検討し、再発の防止に取り組んでいる。行方不明や火災等はマニュアルを作成している。誤薬の防止策として、薬袋の名前を声を出して3回確認している。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>急変時や事故に備え、内部研修で学び、更にユニット会議で話し合いをしている。</p>	○	<p>緊急時の対応や勉強会を定期的に行ない、時には消防士の方より救急救命の指導を受けたい。</p>
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>毎年2回消防署の協力で避難訓練を受けている。更に近隣住民の連絡網も作成されており、災害時協力を得られるようになっている。また、スタッフ全員消火器の使い方の指導も受けている。</p>	○	<p>近隣の住民の連絡網を使って避難訓練を実施して行きたい。</p>
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>状態により起こり得るリスクについて、ご家族に説明、納得して頂き、抑圧のない生活ができる様支援している。</p>		
<p>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</p>			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの体調を把握する為、食事摂取量・水分量・排泄・バイタルなど心身の状態を含め個人記録に記載し、常にスタッフ間で情報を共有している。変化があらわれた場合は、口頭や申し送りで改めて確認し、速やかに対応ができる様にしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変更があった場合は、必ずスタッフノートや、介護日誌に記入し、全員が把握できるようにしている。服薬した後に心身の状態の変化が見られたときは、必ず主治医に報告している。服用は確認と薬を行い、誤薬や飲み忘れのないように努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェック表により、排便の状況を把握している。又、水分チェック表により、十分な水分を摂取できるよう支援している。又、腹部や肛門マッサージ、運動等も取り入れ排便を促している。便秘がちなご利用者には担当医の指示により、下剤が投与されスムーズに排便があるよう取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを行なっている。必要な方には歯間ブラシを使用し、個々に応じた支援を行なっている。ご利用者の口腔の状況に応じ訪問歯科を受診し、口腔ケアの指導を受けている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取量は毎食チェックし、記録に残している。食事の献立は栄養士により作成されているが、ご利用者の状況により献立を変更し、食べて頂く事もある。塩分控えめな方には、薄味を工夫したり、歯の治療中の方には、お粥等を食べて頂いている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフ、ご利用者共にインフルエンザワクチンの接種を受けている。来館者、スタッフが入館した場合、手洗いうがいを行なっている。外出後の手洗い、うがいをし更にノロウイルス対策として1日2回、手が触れるもの(手すり・ドアノブ等)の消毒を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生マニュアルを作成しており、調理器具の消毒などマニュアルにそって実施している。毎日、調理器具や布巾等を漂白剤にて消毒を行なっている。食材は1日おきに新鮮なものが配達されており、食品の衛生管理に努めている。冷凍した食品を解凍する場合は冷蔵庫内で解凍し、雑菌が付着しないようにしている。冷蔵庫内の掃除も頻回に行い賞味期限の点検も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホームの表札は明るい色を使用している。又、玄関横に観葉植物を置き、更に建物周辺にゴミが無いように心がけている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日射しに応じてカーテンの開け閉めを行なっている。テレビのボリュームの音は大きくなりすぎないように配慮している。又料理のにおいや包丁の音などが聞こえ、生活感が味わえるよう支援している。季節を感じることでできる様、作品をリビングに飾り、ご利用者が好きな音楽を流し居心地よく過ごして頂ける様に工夫している。	○	季節感をもっと取り入れた生活をしていけるよう工夫していきたい。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの前にソファセットが置いてあり、思い思いの場所でテレビを見たり、パズルをしたりくつろいで過ごせるように工夫している。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地良く暮らせるようご家族と相談し、使いなれたなじみのある家具や、小物類・パソコン・鏡台・時計など、持ち込まれている。又写真など思い出のある大切なものを置いている方もいる。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日の居室やリビングの掃除、寝具交換時には換気を行なっている。冬は加湿器を使用したり濡れたバスタオルをかけるなど湿度にも十分注意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ、廊下、浴室には手摺りが設置され、トイレは車椅子でも対応可能な広さと状態に応じた移動が安全にできる様、工夫されている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりが理解しやすい方法で居室前・トイレ・浴室・洗面所などに大きく表示して、ご利用者が混乱しないよう、工夫している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの裏に畑があり、花や野菜(レットマト・イエロートマト等)を植え、窓からトマトの色ずきを楽しんで見ている。ご利用者と収穫しその場で食べたり、食材として使う事もあった。	○	裏の畑をもっと開拓し植えるもの等ご利用者から学びながら、もっと多くのものが収穫できるようにしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 菜の花上野幌館は、地域との交流に力を入れている。地域のボランティアの方が来て下さり、童謡からナツメロまで歌ってくださり、ご利用者も口づさんで楽しいひとときを過ごしている。又新さっぽろ幼稚園児が何度も慰問して下さり、ご利用者と子供さんの触れ合いを大切にしている。今年、町内連合会主催の夏祭りに出店させて頂き、グループホームについて地域の方に理解していただくきっかけづくりができた。その後、近隣の住民の方より介護相談やホームを見学したいという電話の問い合わせが何件か入るようになった。